

令和2年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

伝統農法と細やかな労務管理で、ニーズに応じた花きの多品目生産を実現

○氏名又は名称 山下 徳弥・山下 笑子

○所在地 埼玉県川越市

○出品財 経営（花壇苗）

○受賞理由

・地域の概要

川越市は埼玉県中部に位置し、卸売・小売業が盛んな地域。農業では、露地野菜、水稲、花きの生産を中心に、農業産出額は105億円で県内第2位。市の南部で江戸時代から続く「武蔵野の落ち葉堆肥農法」は、日本農業遺産に登録されている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

徳弥氏は、昭和53年に就農し、昭和55年から露地野菜に加え、鉢物の栽培を開始。昭和60年から笑子氏が経営に参画し、花き専作となり施設栽培を開始。平成26年に「(株)ヤマシタフラワーズ」として法人化。現在の栽培品目は花壇苗・鉢物約60品目、経営面積は施設1.3ha、露地1.0ha、従業員数は常勤12名、臨時30名。

・受賞者の特色

(1) マーケットインの販売戦略で取引先を拡大

注文取引が約8割を占め、ホームセンターの他、外資系小売にも販路を拡大。リアルタイムで入手した販売情報に基づいた商品提案を行い、手頃な値段でボリューム感のある「ミックス植え」を商品化。売上高は毎年拡大し、コロナ禍でも1～7月の売上はほぼ前年並みを確保している。

(2) 高品質な多品目生産を支える先進的な栽培管理

作業の効率化・負担軽減のため全ハウスへ自動かん水装置や細霧ノズル等を設置するとともに、パート従業員でも使いやすいITツールとして、スマートフォンを用いた栽培管理マニュアルや作業進捗状況の共有化を行い、年間で約60品目の周年出荷体系を確立している。

(3) 地域伝統農法を継承し、地域社会に貢献

江戸時代からの落ち葉堆肥農法を継承し、従業員総出の落ち葉掃きは、自家製堆肥の確保の他、平地林の維持や防犯面でも地域社会に貢献。また、毎年、職場体験や実習を受け入れ、若い世代に農業の魅力や花を育てる楽しさを伝えている。

・普及性と今後の発展方向

正社員の隔週週休2日制や各種保険等の整備、パート従業員の定期昇給・ボーナス支給等の細やかな労務管理や経験に応じた権限委譲を行う等、家族農業から法人経営組織へ発展した成功事例として、全国への普及が期待できる。

今後の発展方向としては、付加価値の高い商品を生産するため、トレンドに合った商品開発・品種選択を行うとともに、生産の機械化・自動化や完全週休2日制への移行等による更なる栽培・雇用管理の改善を図る予定。